



全国12社の環境モニターやセンサー

連携・接続

**IoP
クラウド**

AI
×
データベース

実装

IoPの最先端研究による最適モデル
+
各メーカー様が開発した機器やアプリケーション等

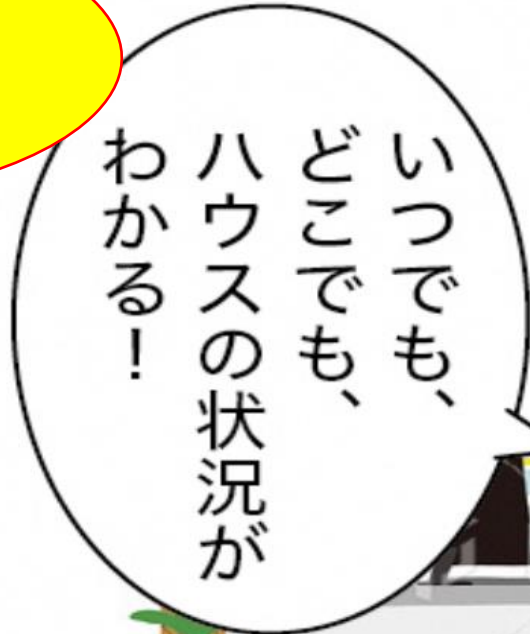
個々の農家の皆様に、有益情報としてフィードバック！

見える化のみでなく、様々な便利機能、省力化、自動化、遠隔化をお手伝い！

**飲みにもっても
安心やね！**



いつでも、
どこでも、
ハウスの状況が
わかる！



今日の
夜の温度は？



単価の高い冬場に
収量増を実現！



失敗が減って
品質がアップ！
栽培が楽しく
なってきた！



新規就農でも
データがあれば
大丈夫！





農業始めたばかり
のBさん



失敗して困って
いるCさん

皆様のデータ(状況)
に応じた営農指導を
がんばります!



JAや県の指導員等

改善のポイントが
よくわかる!

県園芸データ活用1000戸突破

「IOPクラウド「SAWACHI」」



IOPクラウド「SAWACHI」への登録千戸を記念して開かれたセレモニー（県庁）



2023年7月14日(金)

31

園芸ハウスの温度と湿度、日射量などの栽培データをインターネット上で集積する県のIOPクラウド「SAWACHI」の利用農家が千戸を突破し14日、県庁でセレモニーが開かれた。

SAWACHIはクラウド上に集めたデータを分析して収量アップにつなげる取り組み。登録した農家は、スマートフォンやパソコンで気象情報や市況、温度などをリアルタイムで確認できるほか、栽培の参考となる過去のデータも確認できる。昨年9月に本格稼働し、ド上に集めたデータを分析して収量アップにつなげる取り組み。登録した農家は、スマートフォンやパソコンで気象情報や市況、温度などをリアルタイムで確認できるほか、栽培の参考となる過去のデータも確認できる。昨年9月に本格稼働し、アカウント登録書を手渡した。

佐川町でイチゴを生産する植田正和さん(49)は、昨年12月の大雪でハウス倒壊の被害を受け、再建のタイミングでSAWACHIを導入した。「イチゴは温度管理が最も大切。今まではハウスに見に行くことも多かったが、今後は遠隔で確認できる」と期待していた。

一方、県の目標登録数は2022年度2千戸、23年度3千戸で、農業イノベーション推進課は「宣伝、周知に力を入れていく」としている。

現在、出荷データ2,477戸接続、環境データ502戸接続、1,032戸の農家が利用



SAWACHI体験用
QRコード



体験用のデモ画面となります。
製品版との動作は異なります。

なんか、えいぜよ！I o P

